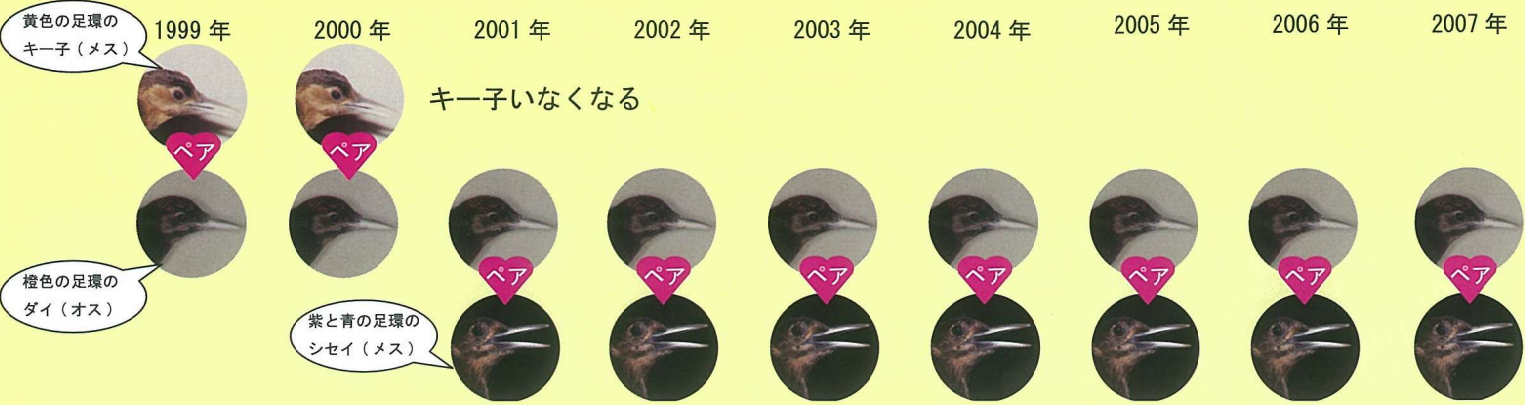




これまでにわかってきたこと

つがい形成

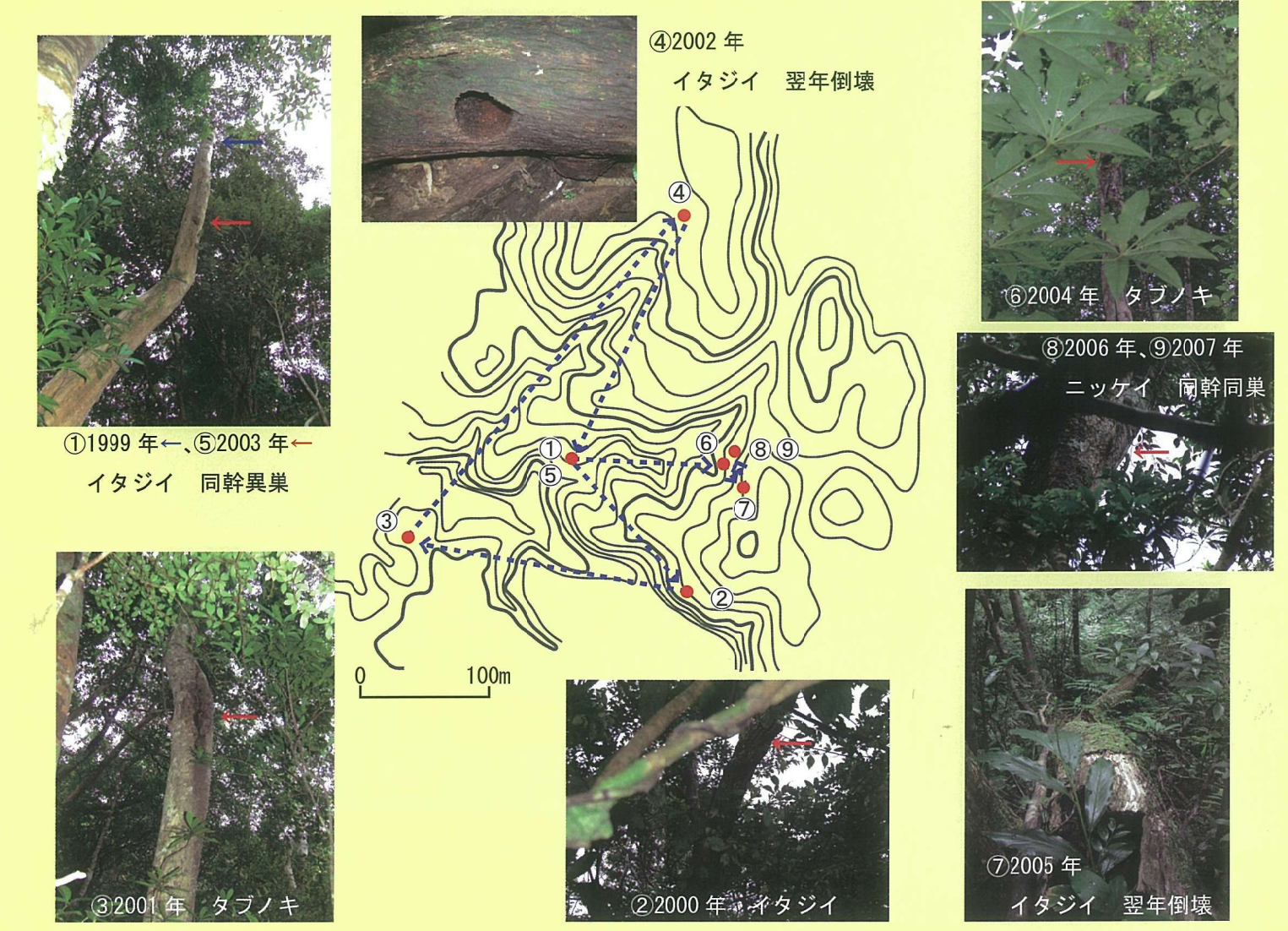
これまでの観察では、ノグチゲラはつがいの相手がいなくなる限り、すべて同じペアで繁殖していました。



※ダイは1999年、2000年とキー子というメスと繁殖しました。2001年からキー子が見られなくなり、代わりにシセイというメスとペアになりました。2007年もこのペアは繁殖に成功しています。

巣の位置の変遷

定住性が強く、他の同じくらいのサイズのキツツキに比べ狭い範囲で行動します。9年間で、ダイの巣はわずか約4haという狭い範囲に作られていることがわかりました。



巣穴掘り

春、ノグチゲラは繁殖のために巣穴を掘ります。巣穴掘りはオスとメスが共同で行います。巣に用いられる木はイタジイが多く、そのほかにニッケイやタブノキ、イスノキなども使われます。巣穴は高さ3~6mのところ掘られることが多く、巣穴の入り口の直径は約7cm、巣の深さは30~40cm程度です。胸高直径30cm以上の木が多く使われます。このような木は林齢40年以上の森に多くあります。また、最近では人里近くの森で、センダンやリュウキュウマツに営巣するノグチゲラも見られます。

巣穴掘りには数週間~1ヶ月の時間を要しますが、長いものでは12月頃からコツコツと掘り進めて春に巣穴が完成したものもあります。



倒壊したイタジイの巣穴を測ってみたところ直径は7cmでした。



産卵とヒナの誕生

巣穴が完成すると次は産卵です。日中はオスとメスが交代で卵を温めますが、夜はオスが温めます。産卵から2週間ほどでヒナがかえります。



産卵数は4個程度



巣穴のヒナ

卵からかえったばかりのヒナはまだ羽毛が生えそろうていないので、体温調節がうまくできません。このため、日中はオスとメスが交代でヒナの温めとエサやりを行います。夜間はオスが巣に残り、ヒナを温めます。



ヒナの頭頂部はオスもメスも赤いです。

巣立ち

ヒナは卵からかえって4週間ほどで巣立ちます。巣立つヒナは2羽ほどと少ないです。ヒナは巣立ちをした後しばらくは親と一緒に過ごします。独立するのは秋頃です。